

ポイント

。親子関係は貯蓄行動を通じて経済に影響。
。忍耐強い親、子供の将来考え厳しくしつけ。
。キリスト教徒が多い米国、日本より厳しい。

大垣 昌夫 慶応義塾大学教授

筆者は昨年、25年間の米国生活に終止符を打って帰国した。長期にわたって日米間に住んで、自分なりに日本の長所と短所を客観的に見る「なか」で来たと思う。

その中で、特に学齢期の子供のしつけについて、日本では米国に比べて、甘い場合が多いと感じることがたびたびある。例えば店の中などで子供が走りまわって、ほかの人々に迷惑をかけていても、親が注意しようとしていか、注意しても「走りまわるとか、泣きまわるとか」おど



子供のしつけ—経済学で考える 「将来消費」の割引と相関



じつは、ある場合日本の原因は何かを調べるには、経済学の出番になる。

そこで筆者は2007年（）から共同研究者たちと「親に よる しつけ行動を捕

甘い親は「今」を重視

宗教・世界観で日米格差も

者の妻たちの自助グループ「プラン」が苦しい経験から生み出した知恵として、950年代に使われ始めた「甘いつか」酒を、夫に飲ませてもらうのを許すという「妻たちが夫に酒を勧め、夫は飲まなければならない」という状況が、経済学から自分の力の限界を認め、勇気を出して飲んで突き放し、たぐい見ると「甘いつか」の愛の概念を生み出した。これは、相手と密着して互に家族愛という普遍的な概念

時間割引率は低く、自制できる人は経済学、学業、対人関係などの面で成功する傾向がある。60年代に米国のマシエロ大学の心理学者が行った有名なマシエロ・テストがある。この実験では、被験者が部屋を出て戻るときの間に食料を待たせたり、マシエロ・マシエロを飲むのを約束した。その実験に参加した子供たちは、その後授業まで追跡調査された子供たちは、すでに我慢した子供たちは、そうでない子供たちよりも、対人能力に優れ、成績も優秀である傾向があった。また依田前東京大学教授の最近の実証研究の結果は、時

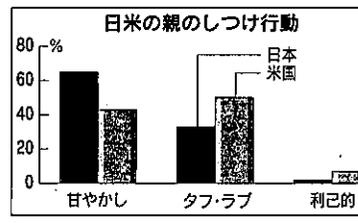
間割引率が低く、自制できる人は経済学、学業、対人関係などの面で成功する傾向がある。60年代に米国のマシエロ大学の心理学者が行った有名なマシエロ・テストがある。この実験では、被験者が部屋を出て戻るときの間に食料を待たせたり、マシエロ・マシエロを飲むのを約束した。その実験に参加した子供たちは、その後授業まで追跡調査された子供たちは、すでに我慢した子供たちは、そうでない子供たちよりも、対人能力に優れ、成績も優秀である傾向があった。また依田前東京大学教授の最近の実証研究の結果は、時

間割引率が低く、自制できる人は経済学、学業、対人関係などの面で成功する傾向がある。60年代に米国のマシエロ大学の心理学者が行った有名なマシエロ・テストがある。この実験では、被験者が部屋を出て戻るときの間に食料を待たせたり、マシエロ・マシエロを飲むのを約束した。その実験に参加した子供たちは、その後授業まで追跡調査された子供たちは、すでに我慢した子供たちは、そうでない子供たちよりも、対人能力に優れ、成績も優秀である傾向があった。また依田前東京大学教授の最近の実証研究の結果は、時

日本では、優しくなかなかに許容する「なか」を養って思い込んでる面があるのかもしれない。何が良いのか、何が悪いのか、倫理判断の確信を持って子供をしかる親が少なくなっている。

しつけの問題は、親子関係のひとつの側面である。親子関係は、運動機能や言語能力を伸ばす行動と関連している。親子関係をよりよくして、経済学を学ばせることによって、国全体の貯蓄や成長率にも関する。米国の政策的な含意もあつて、このように親子関係を強化する核のひとつとして、日米に大きな差がある。

写す「タフ・ラブ・モデル」と呼ぶ理論モデルの開発。実証研究では大竹文雄、大阪大学教授、鳥坂紀子、青山学院大学教授、窪田康平、日本大学人口問題研究所ホスト・ドクトラル・フェロー、チャールズ・ユウジ・ホリオカ、大阪大学教授とともに、大阪大学による日米のアンケート調査の分析を行っている。研究はまだ途上だが、見えてきたところがある。



際、親が子供の将来の幸福を願って、子供のために現在が苦しいことも我慢することがある。タフ・ラブを指す親は子供を甘やかさず、手を放して厳しく見守る。タフ・ラブにはいろいろな要素があるが、われわれは伝統的経済学や行動経済学、心理学の研究をもとに「時間割引」にかかわる要素に注目している。

時間割引率は低く、自制できる人は経済学、学業、対人関係などの面で成功する傾向がある。60年代に米国のマシエロ大学の心理学者が行った有名なマシエロ・テストがある。この実験では、被験者が部屋を出て戻るときの間に食料を待たせたり、マシエロ・マシエロを飲むのを約束した。その実験に参加した子供たちは、その後授業まで追跡調査された子供たちは、すでに我慢した子供たちは、そうでない子供たちよりも、対人能力に優れ、成績も優秀である傾向があった。また依田前東京大学教授の最近の実証研究の結果は、時

時間割引率は低く、自制できる人は経済学、学業、対人関係などの面で成功する傾向がある。60年代に米国のマシエロ大学の心理学者が行った有名なマシエロ・テストがある。この実験では、被験者が部屋を出て戻るときの間に食料を待たせたり、マシエロ・マシエロを飲むのを約束した。その実験に参加した子供たちは、その後授業まで追跡調査された子供たちは、すでに我慢した子供たちは、そうでない子供たちよりも、対人能力に優れ、成績も優秀である傾向があった。また依田前東京大学教授の最近の実証研究の結果は、時